

高たかふはござり升るが乍憚口上をもつて申上升先以て

大江戸御町中様御きげんよく御うるはしきてい体を御目見

仕りいか斗か難有仕合存升随ひ升て私義去ル文政

十亥年御当地江罷下り未熟不調法なる芸道げいどうを

御覧に入升たる所御しかりもなう厚御あつく鼻ひしき貞被成下

成駒〳と御評判に預り候段心魂しんこんにてつし誠に

難有奉存升然る所に去巳年かみがたおもてしせう上方表師匠より

無■相あいまねかれ招候に付升て上坂致し候義は親にも

はなれし子の如くに存升て御当地様江

御残りのこ多くおほござり升れども無是非御名残なごり

狂言相勤つとめ升たる所其節も不相替花々敷

首尾能御暇いとまひ乞仕り上坂致升て師匠にも久々

にて面会めんくわい致し悦入升てござり升彼地江到着後も

評判よろしく扱此度師匠より名跡みやうせき譲り請升て歌右衛門と

改名致升れども兎角とかくに故郷こきやう忘れ難しとか申ならひにござり升れば彼地も

首尾能相勤取ものも取あへませず早速さつそく御当地へ罷下り升て御目見仕り

かやうに難有義はござり升ぬ程此上とも以前にまさり御見捨なう

御ひいきなし下され候やうに角すみから角までずウつと奉願上升る